



発行所 一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
 発行者 甲田 裕
 〒852-8104 長崎市茂里町 3-24
 長崎県総合福祉センター 県棟 4F 408 号
 Tel : 095-846-8730 Fax : 095-846-8738
 E-mail : info@ikusei-nagasaki.jp
 発行日:平成 27 年12月21日

第2回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会名古屋大会開催される!

ひとりひとりのかけがえのない人生を大切にする共生社会の構築
 ~障害者差別解消法の施行と障害者総合福祉法3年後の見直しを控えて~

- *日時 平成27年9月26日(土)~27日(日)
- *会場 名古屋国際会議場
- *併催 第48回手をつなぐ育成会東海北陸大会



式典 会長代理 上原副会長挨拶

■第2回全国手をつなぐ育成会連合会 名古屋大会に参加して

長崎県手をつなぐ育成会副会長 竹内隆伯

全国大会に、9月26~27日参加しました。本大会は、一人ひとりのかけがえのない人生を大切にする共生社会の実現を希って、全てのライフステージにおいて尊厳ある暮らし実現のための積極的な活動が求められていること。そのためには、育成会、関係分野等ネットワークを強化し、全国に格差のない「医学的モデルから社会的モデル、共に支えあう社会の構築、社会への理解の推進」への道筋をつける大会となることを目指し、大会主題は「教育」「はたらく」「くらす」「高齢期」支援の構築。と題し、4つの分科会と本人大会に分かれ進められました。私はCコース「くらす」の分科会に参加しましたが、重い障害のある人(行動障害と自閉症、外傷性障害のある人)をグループホーム(GH)で支援している北摂杉の子会の松上常務理事より徹底的な個別支援を実践する中でホームの住環境に至るまで改善し、少しずつ安定した生活を送れるようになったとの報告が非常に印象的でした。法施行3年後の見直し議論でも常時介護が必要な人とはどんな人か、GHはその受け皿になりうるのか議論されているようです。松上さんの実践はその可能性を感じさせるものでした。最後に今回栄えある全国表彰を受けられました島原市手をつなぐ育成会の平野嗣雄理事長に対し、改めて誌上にて敬意と感謝を申し上げますとともに、今後とも健康でご活躍されますことをご祈念申し上げます。

3000名に及ぶ参加者で、熱気に包まれた大会となりました。各分科会での講演やシンポジウムは、育成会関係者を中心に、広く福祉分野からの招聘もあり、充実した内容となりました



平野嗣雄島原市育成会理事長
 表彰おめでとうございます



中央情勢報告 田中正博統轄



Cコース くらす分科会

名古屋大会本人部会に参加して

長崎市手をつなぐ育成会 ワークあじさい支援課長 藤原 剛

今回の全国大会名古屋大会では本人大会の第1分科会“はたらくことと相談”に参加しました。来年度は長崎の地で九州大会が開かれますので本人部会に関わっていく上での参考にしていきたいと思って分科会に臨みました。“はたらくことと相談”では、午前中は講師の又村あおいさんが壇上に立ち講義形式で分科会が行われました。又村さんの話をただ聞くだけでなく、会場に来ていた本人さんの意見をなるべくすべての人に発表してもらうように、時間をしっかりとって進行をしていたのが印象に残りました。本人さんの意見もさまざまな意見があり、時には話題にしている内容から少しそれたことを発表していた本人さんもおられました。それらも含めて又村さんがうまく話をひきだして、そのことについて批評するようなこともせずに進めていったことで、会場には自分の思っていることを素直に表現できるような雰囲気作りができていたように感じました。午後からは本人さんがそれぞれの体験や仕事の事などを発表されましたが、自分の体験を思いも交えて発表されていたので、とても興味深く話を聞ききました。また、午前中の講義で本人さんもたくさん発表したことで質問の時も多くの方が自ら発言をして、とても活発な分科会になっていると感じました。全国大会に参加している意欲的な本人さんなので、その方の意見を多く受け止められるような工夫をしていく事が本人大会の分科会としてとても大切なのではないかと思います。



ドリームオンステージ



戸畑元貴さん

全国手をつなぐ育成会名古屋大会に参加して

戸畑元貴

平成 25 年 9 月 26 日(土)、27 日(日)に第 2 回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会に参加してきました。大会の主題は「障がいのある人もない人も共に支え合う社会づくり」でした。この主題は、NPO ふれあいネットワーク・ピアの目指すものと同じです。ふれあいネットワーク・ピアは障がいをもつ当事者団体で、長崎県下に 5 つの支部、会員数 494 名の団体です。ひとりひとりのかけがえのない人生を大切にする共生社会の構築に向けてボランティア活動や福祉事業(グループホーム事業)などを実施しています。

さて、私は本人大会の「働く生きがいを考えよう」というテーマのシンポジウムに参加しました。そこで感じたことは、コーディネーターの又村あおいさんのお話です。それは職場についての体験発表でした。一番感じたことは、又村さんの利用者さんへの話し方や接し方がとても親しみやすいということでした。親以上にやさしく、包み込んでよくわかるように話してくれたのです。

私は自分自身の生活を振り返ってみました。私はみんなによくわかるように話していただろうか？そう思いました。本人大会に参加して、みんなにわかりやすく、当事者の思いを伝えていくことができるようになりたいという思いになりました。そして、障がい者のニーズに対応した「はたらく」「くらす」支援が充実していけばいいなと思っています。これが僕の願いです。

もっとぼくらの声を聞いてください。

もっとぼくらの声を聞いてください。

もっとぼくらのことを身近に感じてください。

全国大会に参加して、とても勉強になりました。ありがとうございました。

**長崎県手をつなぐ育成会
第6回就労支援セミナーに参加して**

さんらいず就労移行事業所
ジョブコーチ 佐藤 実

就労支援セミナーへは、さんらいずの就労移行事業所の活動として利用者9名、職員4名で参加しました。洋菓子製造のグローズプロダクツの内田社長より「働く障害者を支えて」と題して講演がありました。障がい者を雇用したきっかけから始まり、現場も経営者も一体となり利益を出しながら複数名の障害者雇用を継続している話から、A型事業所「ハッピーもも」の開設の話など、社長の優しさだけでなく厳しさを感じ取れる部分もあり、人柄の大きさや深さを感じました。

社長のお話から働くこと、働き続けるために必要な事として「目の前の仕事を確実にする」「仕事に偉い偉くないはない」、「違いを大切にすること」という3つがとても印象に残りました。他にも働く上で大切な事は沢山ありますが、障がいがあってもなくてもこの3つは共通する部分だと思います。

午後からは、「楽しく働いて」という事で4名のご本人さんからの発表がありました。発表者の一人である上田さんはさんらいずから8年前にリンガーハットに就職された方で、この発表に向けて私も支援役として共に準備などに携わってきました。上田さんも自分のこれまでを振り返ったり、これからを考えたりする時間となり、準備から当日まで大変苦労しましたが、会社からの貴重なコメントもいただき発表後の笑顔を見て本当によかったと思いました。上田さんの姿が今の就労移行事業所の皆さんへいい刺激となり模範となると感じています。今後も、就労支援を進める中でその人らしさを引き出せる様な支援を目指していきたいと思います。貴重な時間をありがとうございました。

会場の様子



就労支援セミナーに参加して

就労移行事業所さんらいず 加藤千晶

私は就労セミナーで内田五郎さんの話を聞いて、個性を大切にすることの大事さを学びました。

また、グローズ・プロダクツで学んだことでいかにして、パティシエになろうという人もいて、私は今22歳（今月で23歳）ですが、何歳から頑張ったらパティシエになれるかと質問しました。夢は何歳になってからも目指してもいいんだということがわかりました。

次に午後の部で話された方は宮本さん、上田さん、神谷さん、小川さんで、4人とも就職したての頃は、いろんな仕事に苦労して、中には泣き出してしまう事もあったが仕事をしていくうちに慣れてきて仕事が楽しいと言えるようになったそうです。私は自分もさんらいずに入りたての頃は不安で泣いてしまった経験が重なるなと思いました。そして宮本さんが言った、リサイクル回収の仕事では「スピードと正確性が大切だ」ということから、働いていく上で大事なことを実感しました。また、上田さんは時津のリンガーハットで働いて、「自分はお客さんが、気持ちよく食べられるようにするために、考えながら掃除をしている。」と言っていました。考えて仕事をする事は必要だということに気づかされました。

最後になりましたが、この就労セミナーに参加して、自分が感じたことは、みんな最初は苦労しているが、それでも最後まであきらめないでいるから今の自分があるのかなと感じました。そして、4人とも仕事だけではなくそれぞれの趣味もそれぞれに充実しているなとわかりました。大変勉強になりました。

回を重ねて第6回目の開催となる就労支援セミナーが、12月3日（木）長崎商工会議所（長崎市興善町）の2階ホールで開催されました。この就労支援セミナーについては、育成会以外の人たち、特に企業側の人たちに多く集まって欲しいという会長の永年の願いが通じたのか、会員、本人、育成会関係者のほかに、長崎市の中小企業同友会の方たちの参加もあり、120名ほどの参加者となりました。

トラブルシューター養成セミナー

(アドバンスコース)

が開催され、54名の参加がありました。

12月5日(土)10:00~16:00

道ノ尾病院 みちのおホール

講演：「触法障害者の地域支援とは」

～八尾事件に学ぶもの～

まず、社会福祉法人ゆうとおん理事長の畑健



畑 健次郎氏

次郎氏の「触法障害者の地域支援とは」～八尾事件から学ぶもの～と題して、出口支援について、入所中から訓練施設を経て、ゆうとおんで受け入れて今日までの支援の実態

を、関係機関との連携を含めて、講演を頂き深い感銘を受けました。午後から、長崎地域生活定着支援センター所長の伊豆丸氏から「仮想事例の説明」を受け、6つのグループに分かれて討議を実施しました。その後、各グループの討議内容をまとめて代表者が発表し、伊豆丸所長を始め、各分野の専門家からアドバイスがあり、とても有意義な研修となりました。最後に伊豆丸氏の「私が日々大切にしていること」のメッセージで終了しました。

各グループの意見発表



<助言者>

長崎県地域生活定着支援センター

所長 伊豆丸 剛史 氏

※地域生活定着支援とは

刑務所の出所後にのらない高齢者や障害者が安定して暮らせるよう受け入れ先を探すことを主に担う。2009年度に始まった国の補助事業。



グループ討議の様子

累犯障害者・の高齢者に思う

福祉的支援協力事業所協議会

会長 松田正民

今日の少子高齢社会は、混沌とした時代到来の中で、正に複雑、多岐多様化するところであり、福祉の要請も想像以上に早いスピードで変遷を遂げてまいりました。高齢者、障害者に関する施策については国民皆等しく幸せを感じる社会実現のために、取り組むべき大事な政策問題であります。その中で、累犯障害者・累犯高齢者に対する司法の動きは、感心と共に問題になっている課題でもあります。現在全国の刑務所に約3万人の受刑者が新たに収容されているというのが実情です。そのうち4人に1人が障害者であり、また高齢者は全体の15%近くと数字があがっております。側聞したところ受刑者1人の経費は年間約300万円。そのことを非難するわけではありませんが、その血税をもっと違う形で有効最大限に福祉的支援のために利用し、累犯障害者・高齢者の皆さんが社会に復帰し、いかに貢献できるよう導くことができるか、そのことを模索することが必要だと考えます。一般受刑者のように、自分の欲望を満たすために犯罪に手を染めるのとは違い、生きていくのが苦しい環境の中で犯した罪であり、累犯障害者・高齢者の皆さんの生い立ちや環境を知ったとき、そのまま犯罪者として刑の執行がなされて良いものだろうか疑問に思うのです。このことについては、賛否、意見が分かると推測されますが、このような、弱者ともいえる人たちの犯罪行為は社会全体の問題として捉えていく必要があるのではないのでしょうか。いずれにしても国民皆等しく犯罪なき社会の実現を望むものです。どうぞ関係機関の皆様方は勿論であります、行政及び司法、そして多くの人々の関心をお寄せいただき、ご指導賜りますことをお願い申し上げます。

ながさき **LOVE** 地域で育成会！

がんばってま〜す！

諫早市育成会

諫早市手をつなぐ育成会は、運営委員会と活動委員会で構成されています。

運営委員は、正副会長・各支部長・各活動部会長・事務局です。

活動委員会は、九つの部で構成され、毎月1回の会合を開催して、多数の行事や会の活動について話し合いをします。重要な決定は、運営委員会で審議されます。

《部会の紹介です》

総務部	運営委員会との連携と活動委員会のまとめ 新成人祝賀会の企画・実施
事業部	バスハイク・大運動会・クリスマス会・キャンプの企画・実施
生活支援部	家族や本人の相談支援・就労者の地域生活支援
販売促進部	会員が一致団結し、のんこの祭りを初めとする各町祭りでの出店販売 会活動の財政面の支えとなり、市民と接することによって障害のある人の啓発運動にも繋がっています。
広報部	機関誌「育成会だより」新年号「つくし」の発行
余暇活動部	毎月1回、お茶・お花・調理の活動を実施
就学部	学齢期の子供中心に長崎大学生のボラさんと共に、ボウリング、遠足 お出かけ等を実施
本人部	“長崎きずな”に参加したり、九州大会に参加
施設部	事業体として設立した社会福祉法人諫早市手をつなぐ育成会と連携し 健全運営



運動会



出店



成人式



バスハイク

諫早は、運動体と事業体で構成されています。
行事や活動も連携して企画・担当して取り組んでいます。今後とも宜しくお願いします。



第15回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

平成 27 年 10 月 24 日～26 日まで和歌山県で開催され、長崎県から個人競技 29 名とソフトボール競技 14 名が参加し、金メダル 10 個、銀メダル 7 個、銅メダル 7 個計 24 個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目 1	種目 2
陸上競技	濱本 丈	200m 第 1 位	100m 第 1 位
	田道 優樹	200m 第 3 位	100m 第 2 位
	城谷 洸平	200m 第 1 位	
	松山 博昭	走幅跳第 1 位	100m 第 3 位
	阿比留竜輝	200m 第 2 位	400m 第 3 位
	山田 怜也	800m 第 1 位	1500m 第 2 位
	大石 透	ジャベリックス第 1 位	ソフトボール投第 1 位
	山本 亜美	ソフトボール投第 1 位	
水泳競技	山本 清音	800m 第 1 位	1500m 第 2 位
	大石 和将	50m 平泳ぎ第 3 位	
卓球競技	古賀 壮	25m 平泳ぎ第 2 位	50m 平泳ぎ第 2 位
	丸田 勇人	一般卓球第 1 位	
	山口 一太	一般卓球第 2 位	
フライングディスク競技	川口 勝人	一般卓球第 3 位	
フライングディスク競技	琴岡 淳一	ディスク第 3 位	
ホクリック競技	竹下 幸太	青年男子第 3 位	
ソフトボール競技	団 体	第 3 位	

北松分教室での家族支援プロジェクト

去る 10 月 3 日、佐世保特別支援学校高等部北松分教室で家族支援プロジェクトのワークショップを開催しました。今回父親や先生たち男性の参加者も多く、普段聞けない父親の思いに耳を傾けながら、ぎこちないけど深い愛情で見守る父親のココロを垣間見ることができました。

高等部なので、皆さん卒業後の進路や未来の生活への

不安が共通してい

ましたが、「家族に

も支援が必要です」の

スライドを見て、障がいの

ある子が中心になりがちな

生活の中で、きょうだいにも

しっかり関わり「あなたのことを

しっかり見てるよ」という

メッセージを伝えたいと言

われる参加者もおられました。

本校からの参加もあり、親

同士の交流もでき、楽しく有

意義な時間でした。（佐世保市 川下）



地域をつなぐ推進会議 壱岐市

平成 25 年度から『地域をつなぐ推進会議』と名付けて、知的障害者の就労に焦点をあてた研修会を実施しており、今年度が最終年度です。



11月7日(土)12時30分から、芦辺町クオリティーセンターで開催しました。白川博一壱岐市長及び吉田寛壱岐市商工会会長の来賓挨拶で始まり、「壱岐國の里」主任職業指導員の小畑雅信氏と「壱岐障害者地域活動支援センターひまわり」係長の日高英紀氏両氏による「障害者の就労について」の講演で、壱岐市の知的障害者の就労の現状や課題が浮き彫りにされました。次に、結の会の松本希望さんが「私の仕事」という題で発表され、明るく楽しそうに働いている様子が伺われました。最後に、「地域づくりをいかに進めるか」について長崎県手をつなぐ育成会長から提言を行い、共生社会の実現に向けた取組みについて自助、共助、公助の必要性を訴え、共感を呼んでおりました。感想としては、「今後の障害福祉施策を進めるにあたり大変参考になった。」「日常生活で気づいたところは、すぐ対応し、解決できないところは、関係者と情報を共有し、連携していきたいと思います。」という、前向きなものが多く見受けられました。(三村)

知る見るプログラム(本人部会「きずな」)

平成27年11月22日(日)、第2回本人部会「長崎きずな」連絡協議会において、長崎市育成会本人部会 FICS のメンバーでファシリテーターでもある3名とともに各育成会の代表のみなさんと、「みんなで知る見るプログラム」の2つのワークを行いました。この「知る見るプログラム」というのは、障がいのある人が自分を知り、自分の可能性や夢を見つけるためのものです。「障害ってどんな感じ?」のワークでは、自分の障害に対するイメージを色や言葉、形、絵を使って、「障害があっても



(困ることは)何もない。今が楽しいからピンク、「障害があるのはいや。でも、希望もあるから(黒ではなく)グレー。」などと、堂々として自分の考えを述べられました。(長崎市 吉井)

知的障害児者・自閉症児者のための 生活サポート総合補償制度

既往症、てんかん発作など知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

- ①入院給付金
- ②個人賠償責任保険金
- ③死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金
- ④葬祭費用保険金

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。

(事務局) ながさき知的障害児者生活サポート協会
TEL: 095-893-5503 FAX: 095-814-1778

(担当代理店) ジェイアイシー九州
TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562



◆この広報紙が会員の皆さんの手元にお届けできる頃は、新しい年 2016 年に変わっているのかもしれませんが、この冬の気候は、西日本地方は“暖冬”とのこと。寒くないのは有難いですが、季節に相應しい天候でない。干し柿を食べたいと、つるし柿を作られた方も多いことでしょう。しかし、寒気に恵まれず、吊るした柿が落ちてしまったと嘆きもあり、「濃度の高い焼酎に着けて」のアドバイスが朝のラジオで流されていたことを思い出しながら“杉の子”の原稿づくりをしているところです。◆長崎電気軌道(株)

は、営業運転開始 100 周年を 11 月 16 日迎え記念行事が開かれ、電車マニアが 15 日大橋周辺で記念撮影に熱中。しかし、桜町経由の蛍茶屋行は脱線事故のため運休中が続いています。原因が早く解ればよいのですが。路線バスでは、利用者皆さんの車内での転倒事故を防ぐため、運転手さんからは、「手すりにおつかまり下さい」と繰り返しアナウンスされ、空席があれば着席まで発進しないなど、安全確保に一段と気配りが図られています。しかし、乗客の皆さんは、スマートホンに夢中。年配の方が手すりを利用されているのに、空席があれば即着席。「周囲の空気を読んでよ」と叫びたくなる場面も。二人掛けの座席の場合、相手の方がいれば「失礼します」と声をかけて腰かける人も少なくなったと感じるこの頃です。“であい”を大切にしたいものです。◆12月3日～9日は「障害者週間」です。一日違いから始まる「人権週間」と併せて、権利を守るについて考える機会でありたいと思います。12月に入り、長崎県では県政の方向性を探るため、県民 3000 人を対象に「県政世論調査」が行われています。この調査項目には、「障害がある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を知っていますかとの問いも設けられています。「合理的配慮」について、県民の理解が深まる特効薬的な施策はないものかと、頭を捻っているのですが。◆時候は遡りますが、全国手をつなぐ育成会連合会の最大のイベント「第 2 回全国大会名古屋大会」が、全国各地より約 3,000 名が参加。「障害のある人もない人も共に支えあう社会づくり」を主題に熱のこもった語り合いがあり、新しい組織に相應しい全国大会となったと感じたのは、私だけはなかったことでしょう。名古屋大会で得た新しい発見を、2016 年夏に開催される「九州地区手をつなぐ育成会長崎大会」にも反映できることを願って申年を迎えることにします。(甲田 記)



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全日本手をつなぐ育成会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間 3,600 円 B5 版 48 ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

特別支援教育を必要とされている方のために生まれました。

広告

ぜんちの
こども傷害保険

個人賠償 弁護士費用 ケガ入院・通院

- ◎ 個人賠償責任補償
- ◎ 権利擁護費用補償 (弁護士費用)
- ◎ ケガでの入通院保障



特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店をお願いいたします。

○取扱代理店

有限会社 トータルサービス(担当:向井)

TEL 095-832-2430 FAX 095-832-2580

〒850-0033 長崎市万才町 6-35 三井生命長崎ビル 5 階

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒101-0032

東京都千代田区岩本町 3 丁目 5 番 8 号
岩本町シティプラザビル 5 階

http://www.z-kyosai.com/

* この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。